

【独自】マスク着用「人と距離とれる屋外・保育所内の園児は不要」…専門家が見解案提示へ

2022/5/19 読売新聞

新型コロナウイルス対策を巡り、マスク着用に関する見解案を専門家グループがまとめ、

◆マスクを巡る主な発言

尾崎治夫・東京都医師会長	屋外で換気の良い場所では、着用の見直しを行っているのではないかと(10日の記者会見)
脇田隆字・国立感染症研究所長	屋外で、距離をとって、会話もないところでは、マスクをする必要はない(11日の記者会見)
末松文部科学相	体育の授業でマスク着用は必要ないことを(マニュアルで)示している。これからは熱中症対策の徹底が不可欠(12日の参院文教科学委員会)
松野官房長官	気温・湿度が高く、野外で人との距離が十分あれば、外すことを推奨している(13日の記者会見)
岸田首相	着用は感染の基本的予防策として大変重要。現時点で、着用を緩和することは考えていない(13日の衆院内閣委員会)

19日の厚生労働省の助言機関に示す。人と距離がとれる屋外で不要とするほか、既に政府が推奨を取りやめる方向で検討している未就学児の着用も求めないこととする。夏に向け熱中症のリスクが高まる中、着用の是非が議論となっていることを踏まえた。

見解案では、屋外では基本的に、人との距離をとれば着用は不要とする。ただし、通勤・通学など公共交通機関を使う場合は着用するほか、常にマスクを持参し、人混みや屋内に入る際に適宜着用する。鼻水や喉の痛みなどがあれば外出を控えることを求める。

また、保育所などでの2歳以上の園児にマスク着用を勧める政府の方針に対して、見解案では「一律には着用を求めない」ことが望ましいとする。

新型コロナの感染者数が減少傾向を

示す中、欧米のようなマスクの着用緩和に期待が高まっている。

尾崎治夫・東京都医師会長が10日の記者会見で、屋外は感染リスクが低いとして、「着用を見直してもいいのではないかと」と発言。夏場に着用していると熱中症のリスクが高まることから、13日に松野官房長官が会見で「気温や湿度が高く、野外で人との距離が十分あれば、外すことを推奨している」と話した。

また、未就学児が長期に着用すると、互いの表情が分かりにくく、発育に悪影響があるとの指摘も医師らから出ている。

ただし、感染によって重症化したり後遺症で悩んだりする人がいることから、「全面的にマスクを外すには、まだ時間がかかる」との指摘もある。

岸田首相は13日の衆院内閣委員会で「着用は基本的予防策として重要」とし、現状では緩和に慎重な姿勢を示している。

感染症に詳しい舘田一博・東邦大教授は「患者が手軽に使える治療薬や、効果が長く続くワクチンが登場すれば、マスクを外していい場面が徐々に増えるのではないかと」話している。

保育園で「消毒液を10回なめた」5歳女児、急性アルコール中毒で一時意識不明

島根県雲南市の市立保育園で、女児(5)が新型コロナウイルス対策で園内に置かれていたアルコール消毒液をなめて意識を失い、急性アルコール中毒と診断される事案があった。

女兒は回復したが、市は消毒液を子どもの手が届かない場所で保管し、職員の監視下で使うよう注意喚起した。

市などによると、女兒は3月28日午後3時半頃、保育園で体調不良を訴えた。間もなく呼びかけに応じなくなり、同県出雲市の県立中央病院に救急搬送された。女兒は同日夜に目を覚まし、「消毒液を10回くらいなめた」と話したといい、血液検査で1デシ・リットルあたり120ミリ・グラムと高いアルコール濃度を検出。急性アルコール中毒と診断された。

診察した県立中央病院の平出智裕医師（42）は「子どもは好奇心で口にしやすい、面白がって繰り返すと中毒症状につながる可能性がある」と指摘している。